

(事後評価)

西アフリカの気象変動予測の高度化による 穀物生産のリスク軽減技術の開発

(研究期間：平成 12 年～ 14 年)

任期付研究員：ジョン・S・コールドウェル(独立行政法人国際農林水産業研究センター)

総 評(期待したほどではなかったが一定の成果が得られた研究であった)

本研究は、気象変化に対応した作物品種、栽培関連技術の解明、気象予測モデルの開発、リスク分析モデルによる最適穀類生産システムの選択基準の構築という3つの研究目的を設定し、気象変動と農家生産者行動の実態を同時に捉え、気象変動予測モデルを開発するとともに、リスク軽減のための技術開発指針を提示することを目指すものである。

本研究においては、マリにおける長期間の現地調査・観測に基づき貴重な知見が得られており、目標の設定やアプローチの仕方は評価できるが、当初設定した3つの研究目的はいずれも達成されておらず、所期の目標が十分達成されたとは言い難いが、ある程度達成されたものと評価できる。また、交通、言語、社会の発達段階など非常に難しい条件の場所を対象とするなど、3年間という期間で目標を達成するには困難な計画であったと考えられ、もう少しテーマを絞るべきであったと考えられる。この点に関しては、研究者に当地滞在の経歴があることと、所属機関の経験から見ればある程度予測できたことと考え、厳しい評価とした。

また、学会などへの報告が少ない他、貴重な成果を現地の農業振興に役立てるための情報発信が乏しい印象も見受けられるが、「気象変動に伴う作付け・栽培技術選択の解明」など、対象地域と密着した労力の係る調査を通じて有益な結果も得られており、ポテンシャルのある研究であることから、今後の更なる発展が期待される。実際、研究終了後に別途おこなわれた調査により、播種行動の変化等について新たな知見が得られている。

他方、15年間の研究経歴を有する研究者を任期付きで招へいし、一定の研究成果を得るなど、所属機関における研究の活性化に寄与している面も見受けられることから、任期制の活用効果は十分あったものと評価できる。また、任期付研究員に対する所属機関の支援については、事務手続きの簡素化を図るなど、概ね支援が行われたものと評価できる。

以上により、本研究を総合的に判断すると、期待したほどではなかったが一定の成果が得られた研究であったと評価できる。

< 総合評価：c >

評価結果

総合 評価	目標 達成度	研究成果			研究 計画	任期制の 活用の効果	所属機関 の支援
		科学的・技術的価値	科学的・技術的波及効果	情報発信			
c	c	b	c	c	d	a	b